

## 高額療養費外来 年間合算の支給申請



外来療養に係る年間の自己負担額が一定額を超える場合、その超える額を支給します。

■対象 国民健康保険加入者(70歳以上)または後期高齢者医療制度加入者で、次のすべてに当てはまる人

◆令和元年7月31日時点の所得区分が一般・低所得

◆平成30年8月～令和元年7月の外来療養に係る自己負担額が144,000円を超える

■申請方法 12月中旬～下旬に送付される申請書に必要事項を記入・押印し、返信(加入保険を変更した人は、申請書が届かない場合があります)

■問い合わせ 保険課保険係 ☎38-2035 / 後期高齢者医療係 ☎38-2037 / 兵庫県後期高齢者医療広域連合事務局 ☎078-326-2023

## 冬の公民館講座

学習を通して新しい世界を発見しませんか

◆日本人の源流・神話を訪ねて「キーワードから読み解く神話」(全3回) 令和2年1月27日・2月10日・3月23日(月)午前10時～11時30分

◆日本近現代史講座「はじめての福澤諭吉」(全3回) 1月25日・2月29日・3月28日(土)午後2時～3時30分

◆「北米ノースウッズを旅して」(全3回) 1月18日・2月8日・3月14日(土)午前10時～11時30分

◆地球史講座「裂ける大地と人類誕生」(全2回) 2月1日・3月7日(土)午後2時～3時30分



■申し込み 12月15日(日)〈必着〉までに講座名・住所・氏名・電話番号を記入し、はがき・ファクス・公民館備付け用紙で下記へ

■会場 市民センター401室

■定員 各90人(市民優先)

■費用 全3回1,200円 / 全2回800円

■問い合わせ 公民館 ☎35-0700/FAX31-4998 (〒659-0068 業平町8-24)

## 平成30年度 芦屋病院事業会計決算報告

問い合わせ 芦屋病院 ☎31-2156

平成30年度は、入院患者数66,038人と前年度より3,515人増加、外来患者数85,562人と前年度より1,634人増加しました。経営状況は、病院事業収益53億4,008万円、病院事業費用は55億1,325万円で、差し引き1億7,317万円の純損失(前年度4億4,536万円)となり、累積欠損金は121億5,545万円となりました。

概況は「市立芦屋病院新改革プラン」の2年目を迎え、この計画目標の達成を目指し、更なる経営改善に取り組んできました。24時間365日体制での救急診療の開始、急増する認知症疾患等に対応するため、神経内科を標榜し、脳神経センターを開設、理学療法士の増員によるリハビリテーション提供件数を拡大するなど、地域医療を支え、超高齢社会にも対応できるよう診療内容の充実を図りました。また、医療従事者への緩和ケアの普及や交流を目的とした緩和ケア研修会の実施や、芦屋市医師会と「芦屋緩和医療連絡協議会」を設立するなど、地域との連携を図りました。診療機能の充実では、最新の機能を保有するMRI装置やマンモグラフィ装置等の医療機器を更新・整備しました。業務運営コストの削減では、ジェネリック医薬品の使用率で、国が定める数量シェア目標を上回りました。これらのことから、昨年度と比べて、入院・外来患者数、病床稼働率、入院単価の増加等により、収益が増加し、純損失を大幅に縮減する結果となりました。

3D撮影機能を搭載したマンモグラフィ装置



	平成30年度	増減	
入院	延べ患者数	66,038人	3,515人
	一日平均患者数	180.9人	9.6人
	病床稼働率	90.9%	4.8%
外来	延べ患者数	85,562人	1,634人
	一日平均患者数	350.7人	6.7人
	診療日数	244日	0日
病院事業収益	53億4,008万円	3億8,118万円	
病院事業費用	55億1,325万円	1億899万円	
純損益	△1億7,317万円	2億7,219万円	
累積欠損金	121億5,545万円	1億7,317万円	

## 平成30年度 水道事業会計決算報告

問い合わせ 水道管理課 ☎38-2080

平成30年度の給水人口は、94,222人で前年度より317人(0.3%)減少しましたが、一人一日当たりの使用水量は、3ℓ増加し295ℓとなったため、料金収入となる有収水量は78千 $\text{m}^3$ (0.8%)増加して10,158千 $\text{m}^3$ になりました。

事業収益は、給水収益や受託工事収益の増加などにより4,984万円(2.2%)増加して22億6,657万円となりました。

一方、事業費用は、受託工事費等の増加により7,339万円(3.8%)増加の19億8,552万円で、差引収支は2億8,105万円の純利益となりました。しかし、人口減少や節水機器の普及などにより収入減少が今後見込まれる中、老朽管の更新工事などを控え水道事業を取り巻く経営環境は厳しい状況です。本市水道事業では、「芦屋市水道ビジョン改訂版」、「芦屋市経営戦略」のもと健全な運営を行い、計画的に老朽管の更新、施設の耐震化をしています。平成30年度は第2中區配水池の耐震化工事を行いました。引き続き、安心・安全な「おいしい水」を持続して供給します。



	平成30年度	増減
給水人口	94,222人	△317人
総配水量	10,688,327 $\text{m}^3$	231,066 $\text{m}^3$
自己水量	1,314,047 $\text{m}^3$	35,736 $\text{m}^3$
阪水受水量	9,374,280 $\text{m}^3$	195,330 $\text{m}^3$
有収水量	10,157,629 $\text{m}^3$	77,614 $\text{m}^3$
有収率	95.03%	△1.36%
水道事業収益	22億6,657万円	4,984万円
水道事業費用	19億8,552万円	7,339万円
純損益	2億8,105万円	△2,355万円

## 平成30年度 下水道事業会計決算報告

問い合わせ 下水道課 ☎38-2064

平成30年4月1日より地方公営企業法の一部(財務規定)を適用し、特別会計(官公庁会計)から公営企業会計へ移行しました。公営企業会計へ移行することにより、経営成績や財政状態をより明確にし、長期的な財政収支による経営分析が可能となるため、経営の健全化や計画性・透明性を向上させることができるようになりました。

平成30年度の事業収益は30億3,064万円、事業費用は27億3,167万円で2億9,897万円の純利益となりました。黒字決算を確保できましたが、今後は1人当たりの排水量が減少することが予想され、それに伴い下水道使用料も減少することや老朽管の更新、自然災害に備えるための施設整備等の費用が増加する中で経営は厳しい状況にあります。事業面においては、老朽管渠更新工事や大東ポンプ場の自動除塵機更新工事などを行いました。平成30年度に策定した経営戦略をもとに下水道ストックマネジメント計画を活用して、効率的な維持管理のもとで安定した経営に努めるとともに安心して暮らせる下水道事業の運営を目指していきます。



	平成30年度
処理区域内人口	95,488人
汚水処理量	14,926,319 $\text{m}^3$
有収水量	10,544,060 $\text{m}^3$
経費回収率	110.56%
汚水処理原価	83.43円/ $\text{m}^3$
下水道事業収益	30億3,064万円
下水道事業費用	27億3,167万円
純損益	2億9,897万円